

# 子どもは抱かれるために

## 小さく産まれてきている～電話相談より～

「地域子育て支援拠点運営マニュアル」ワーキングチームメンバー

大和郡山市子育て支援センター（ふたば保育園）

社会福祉法人 郡山双葉会 園長 田中 三千穂

「“いい子に育ってるね、ママ頑張ってるもんね”と 不意に隣の奥さんに言われて涙が出そうになった」・・・これは子育て相談での電話口の向こうでの若いママの言葉。

「一緒に遊んでいたが途中で洗濯物を干そうとベランダに出ると大声で泣き出した。後で行ってみても“抗議泣き”をしつこく繰り返す。思わず“もぉ～っ！”と大きな声を出して叩いてしまった」と話していた人だ。若いママは「あとになって考えると、ちょっと洗濯物をおいて子どもを抱きしめてやれば良かっただけなのに・・・」と続けた。

泣いている我が子を抱きしめ、肌と肌を触れ合って、その子の要求を探り取る・・・、それが子育ての「はじめの一步」。このことが、子どもが大きくなってから、子どもが発する表面的な言葉の奥に隠されている思いを感じ取る力となっていく。子どもも、親にはわかってもらえるという信頼感を持つことができる。しかし“子育ての結果”は、すぐその場では出ない。だから閉塞感を感じてしまう親も少なくないのだろう。

産まれたばかりの赤ちゃんは、大人がどんなに語りかけても微笑み返してはくれない。それが、わずか2ヶ月の間にニッコリと微笑み返してくれるようになる。それは、日々、親からの“働きかけ”があったからこそ。そんなことを思いながら、電話の向こうの若いママに「よかったね、ママの健闘ぶりを見ていてくれたんだね。もしかして、子どもは抱かれるために小さく産まれてきているのかもしれないよ。今のうちに、しっかり抱きしめてあげてね」と話しかけた。

